



第1回

ASDの理解と支援①

～コミュニケーションとイマジネーション～



特性≠障害

❖ 「目が悪い」という特性



メガネやコンタクトがあれば「障害」にはなりません

❖ 「聞こえにくい」という特性

❖ 「肢体不自由」という特性



補聴器、車椅子、エレベータなどで「障害」を軽減することは可能です



本プログラムの目的

- ❖ 早い時期からの適切なかわり
- ❖ それぞれのお子さんにとっての「適切」
- ❖ お子さんの特性をしっかりと理解することが大切



ASDのお子さんたち



考えかた

や



感じかた

に

偏りがあるという「特性」をもつお子さん



「考えかた」や「感じかた」に適した配慮があれば「障害」なく生きていけるはず



でも、「考えかた」や「感じかた」は目に見えない



ASDとは

❖ 生まれながらに脳に存在する「特性」



「育て方」や本人の「性格」によるものではありません

原因はまだ特定できていません



❖ 「重度」から「うっすら」まで含む連続体(スペクトラム)



考えかたや感じかたの偏りの度合いは様々です



ASDとは

❖ まれな「特性」ではない



発生率は人口の1～2%ともいわれています

❖ 「特性」は一生続く



現在の医療で「治癒」することはできません「努力」や「根性」で改善することもできません

でも、「特性」は発達によって変化します

